

# 森づくり最前線

山梨森林管理事務所 南部森林事務所 森林官 安藤 和行



県境からの富士山

私の勤務する南部森林事務所は、山梨県の県庁所在地である甲府市より南西へ60km程離れた、県の最南端に位置する南部町にあります。南部町と近隣の身延町・早川町にある約2300haの国有林と約300haの官公造林(国有地以外で国が造林をしている森林)の管理を行っています。

その大半を占める南部町内の国有林(上佐野国有林)は、静岡県境に位置し、東海自然歩道(東京高尾山から大阪箕面を結ぶ全長約1700kmの長距離歩道)が通っています。ルート上には山梨百名山である長者ヶ岳(標高1336m)や思親山(しんさん)(標高1031m)があり、どちらの頂上からも富士山の雄大な姿を眺めることができます。ただ、富士山の眺望とは裏腹に当事務所が管理する山は、急峻な上、



砂礫質で急傾斜地が多い当管内

地質が脆く崩れやすいため、全国のを手がける造林事業者から、「和歌山に次いで悪い(キツイ)ところだ」とぼやかれる程です。パンクは日常茶飯事で、山に入っている間は落石や滑落の危険と常に隣合わせなので安全確保には非常に神経を使います。

このように、全国でも指折り(?)の悪条件地な為、山へアクセスする際は、林道をはじめ、歩道や里道、既設作業道、(時には獣道)などの「路(みち)」の存在が重要となっ

てきます。定期的に人の手を入れなければ、1年も経たずに笹が繁茂したり、崩れたりして通行できなくなってしまうため、当事務所では、四十年以上この地で作業し、山を熟知している熟練作業員さんと共に、定期的な

道の点検や整備等を実施しています。また、身延・南部地域の森林・林業の再生に向け、地域の民有林・国有林、国有林を一つのまとまった森林として整備を進めていくため、平成25年3月、山梨県峡南林務環境事務所、森林総合研究所森林整備センター甲府水源林整備事務所、身延町森林組合、南部町森林組合、当所の五者で「身延・南部地域の森林整備推進協定」を締結しました。

現在、協定締結者が相互に連携、協力して森林の団地化、集約化を推進し、合理的な路網の整備、効率的な森林施業の実施及び地域材の利活用を促進に取り組んでいます。

近年、全国的に野生鳥獣による農林業の被害が大きな問題となっている中、ニホンジカは山梨県内各地でも増加の一途をたどっています。当事務所管内の南部町内でも、川幅が数百m程もある富士川を泳いで渡ってくる群れの姿がたびたび目撃されています。私が着任してからの2年間でシカの目撃数が急増しており、

当事務所管内の国有林においてもシカが植栽した幼齢木の先端や下層植生を食べることに伴って林地の裸地化、シカやクマによる樹木の剥皮被害等の問題が顕在化しつつあります。

特にクマが歯や爪で樹皮を剥がしてしまう「クマ剥ぎ」は伐採間近の壮齢木が狙われるケースが多く、近



一年を通じて実施する獣害対策

年ではシカによる樹皮剥ぎも増えて経済的な損失も大きい為、一年を通じて対策に追われています。

具体的には、クマやシカが歯や爪を引つ掛け樹皮を剥かないようにテープ(生分解性)を植栽木一本一本に巻き付けたり、保護する区域をネットで囲い侵入を防ぐといった対策を講じています。

シカの増加によりその蹄に取り付くヤマビルも生息範囲を急拡大しており、忌避剤を使用しても、知らぬ間に吸血されるヤマビルの増加は、現場仕事の支障となっています。

発行所 関東森林管理局  
編集 総務課  
TEL(027) 210-1158  
FAX(027) 230-1393